

保育園安全だより

—事故報告より—



令和 8（2026）年度 夏・秋号

7月を迎え、暑い日が続いております。休息や水分補給に留意して、元気に夏を乗り切りましょう。

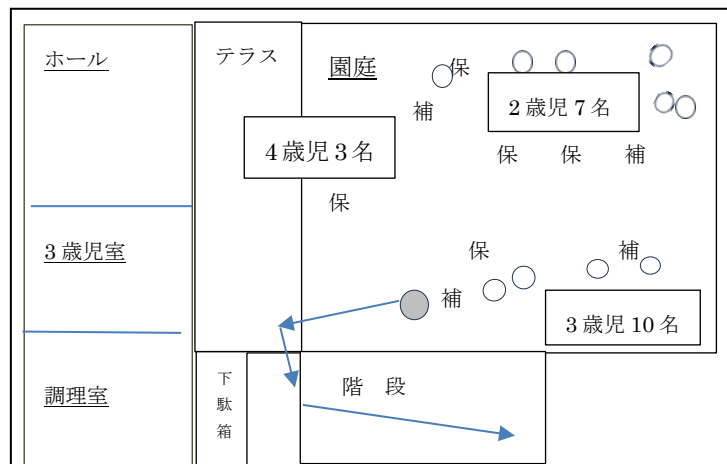
今年度も提出いただいた事故報告書をもとに、「保育園安全だより」を発行いたします。今回は、報告の中で数件あげられていた『園児見失い』の事例と夏のシャワー時の『ラップタオル着用中のけが』の事例をあげました。また、秋の訪れとともに散歩に出かけることが多くなることから、『散歩先でのけが』の事例もあげています。けがの対応としては、『肘内障』と『虫さされ』の事例をあげました。この5事例を職員間で周知していただき、日々のリスク管理に役立てていただきますようお願い申し上げます。

【見失い事故事例】

[発生クラス] 1歳児クラス

[現 場 図]

●
該当園児



[事故発生状況]

園庭に1歳児12名がいた。10:10頃、5名が先に2階保育室に戻る。10:20さらに2名を2階の保育室に連れて行った。その時点で担任保育士は、1歳児が園庭に5名残っている事を確認した。数分後に園庭にいたはずの該当園児がいない事に気づく。他職員に声をかけテラス周辺を確認してもらったところ、下駄箱に該当園児の靴が入っていた。確認をした職員は先に戻った園児と2階に戻っていると思い込み、保育室まで確認にいかなかった。その直後、当番で時差出勤した職員が、泣き声に気づく。見に行くと階段上の受託室の柵の前で泣いている該当園児を発見した。

[事故の原因・問題点]

- ・園庭では、人数と個々の居場所を確認していたが、該当園児が靴を脱いで下駄箱に行ったことに気づかなかった。
- ・下駄箱に靴があったことで、室内に戻ったと思い込んでしまった。
- ・先に保育室に戻った職員のところに行き、該当園児がいる事を確認しなかった。

～コメント～

園庭で遊んでいた 1 歳児クラスの園児を少人数に分け、時間差をつけて保育室に戻す際に起きた見失いの事例です。

子どもの人数は把握していたものの、「室内に戻ったのだろう」という思い込みがあり丁寧な確認をしていませんでした。園庭遊びでは、子どもの様子に応じて、戸外から保育室に戻ったり、トイレに誘導したりすることは、日々生じます。動きがあった時は「〇〇さんが戻りました」「〇〇さんとトイレにいきます」など、声のかけあいを行い、職員間の連携で見失いを防いでいきましょう。

また、保育園内のどの職員も、子どもたちの様子にアンテナを張ることが大切です。『あれ？泣き声がする』『なぜ、ここにいるのかな』等、気づきを大切にして子どもの安全な環境につなげていきましょう。

【夏の水遊び・シャワーの際に発生した事例】

[診 断 名] 打撲

[発 生 日 時] 7月 午前中

[発 生クラス] 4 歳児クラス

[事故発生状況]

シャワーをしている途中でトイレに行きたくなる。ラップタオルで体をおおいトイレへと移動しようとした。室内を移動中にタオルに足をとられて転倒。顔を床にぶつけてしまった。

[応急処置の内容]

上唇から出血があったので止血。前歯を確認する。

[事故の原因・問題点]

- ・シャワー途中にトイレに行きたくなり急いでいた。また、ラップタオル着用の移動で、つまずいた時に手が出せなかった。
- ・ラップタオルから両手を出すことを伝えてきたが、急に移動が必要になったときは、保育士がタオルの着用を手伝ったり、着用状態を見届けたりする配慮が必要であった。

～コメント～

濡れた体を覆い、プライバシーの保護にもつながるラップタオルの使用が多くなりました。タオルの丈が長かったり、ゴムが緩んでいたりすると、足に絡まり、つまずきや転倒の危険が増します。準備する際の保護者への注意喚起を徹底すると共に、職員のリスク管理の意識を高めることに努めましょう。

＊コラム＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

＜園児のプライベートゾーンへの配慮について＞

夏は、着替えが頻繁になる時季です。着替えの場所（おむつ替えの場所）は、他者の目から守られているでしょうか。園内の動線や環境について、再点検しましょう。

また、プライベートゾーンについて子どもへの健康教育の実施や日ごろからの声掛けを実践し、子どもが自分の体・友達の体の大切さに気づけるように意識して関わっていきましょう。施設全体で環境等確認・整備し、『子どもの権利』に配慮した保育を展開していきましょう。

【散歩先での事故事例】

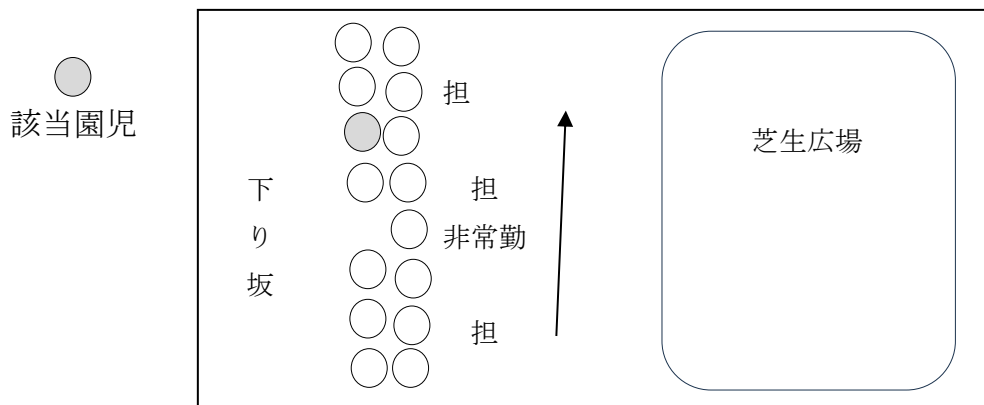
～秋の訪れと共に散歩に出かける機会が増える頃に多くなる事故事例です～

〔診 断 名〕 顔面擦過傷

〔発 生 日 時〕 11 月 午前中

〔発生クラス〕 2 歳児クラス

〔現 場 図 〕



〔事故発生状況〕

公園のコンクリートの下り坂を下っている際、該当園児と手をつないでいた児が前のめりにつまずいた。その時、該当園児のつないでいた右腕が引っ張られバランスを崩し、前に滑るような体勢になる。膝はついたが、転倒し顔面を地面に擦る。左手は自分の洋服をつかんでいて、地面についたかはわからなかった。

〔応急処置の内容〕

ティッシュ※で鼻横の出血をふき取り帰園し流水で傷を洗う。

※出血などの応急処置は滅菌ガーゼの使用が適切です。個包装の滅菌ガーゼを準備しておきましょう。

〔事故の原因・問題点〕

- ・下り坂は転倒するかもしれないという意識が足りなかった。
- ・転倒する危険を考えず、子ども同士がつないだ手を離すようにして、下ることができなかった。

〔その後の改善策〕

- ・下り坂は、転倒する危険がある事を常に意識して下るようにする。
- ・下り坂は、手を離すようにする。

～コメント～

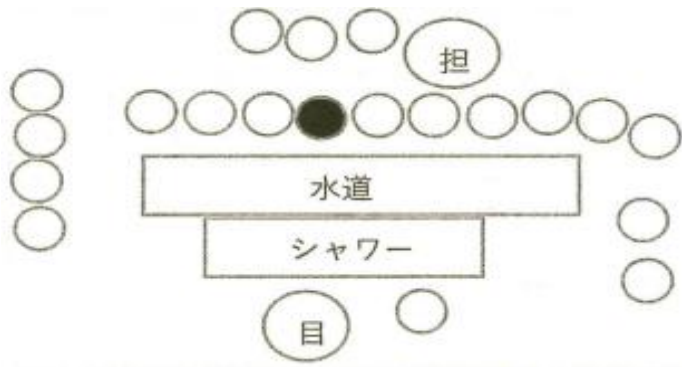
2歳児は、歩行もしっかりしてきて、友だちと一緒に探索を楽しむようになりますが、足腰の発達は個々により異なります。散歩の道も平坦な道・斜面・舗装道路や砂利道等様々です。安全な歩き方を個々に応じて伝えていきましょう。

*コラム*****

この時季は、暑さが和らぎ過ごしやすくなり、自然に触れる戸外活動が多くなります。戸外活動を楽しみ、多くの学びや発見に繋げられるよう、安全管理の留意点や持ち物等を再確認しましょう。また、久しぶりの戸外活動では、計画した時間が延長する事も予測されます。その際は、帰園時間の変更になる事を園に一報入れるなど連絡方法を共有しておきましょう。慌てて行動せず、楽しく満足感を持ち安全に帰園する事も大切にしたいですね。活動後は、子どもの様子を振り返り、次の活動計画に活かし事故がない充実した活動にしていきましょう。

【蜂に刺された時の応急処置事例】

〔診 断 名〕	ハチさされ
〔発 生 日 時〕	9月 午前
〔発生クラス〕	5歳児クラス
〔現 場 図〕	



[事故発生状況]

水遊びの片づけを終え、シャワーをするために、帽子をかけたり、洋服をぬいだりと準備を進め、シャワー前のテラスに一列にならんでいた。その際、テラス（プールサイド）の床にハチが止まっていたが、該当児が気づかずに足で踏む。「ハチに刺された」という該当園児の声を元に、担当保育士がすぐに足を確認すると、2本の針が刺さっていた。

[応急救護処置の内容]

流水で洗い、針を抜いた後、流水で流しながら絞り出しを行った。そのあと冷やしてからレスタミンを塗布する。（太い針は抜けたが、細い針が皮膚の中に残ってしまった）そのあと、全身の様子を観察する。

[事故原因・問題点]

日頃からミツバチが水を飲みにやってくることがあり、ハチ線香を使用し、捕まえるための網を用意していたがハチに刺されることは防ぐことができなかった。

～コメント～

暑い時期、ハチは水を求めてやってきます。特に日中に水を飲む活動が活発なため、プール時期は注意が必要です。ハチは急な動きや大きな音に反応し、攻撃する特性があり、静かにやり過ごすことが勧められています。

《世田谷区立保育園保健マニュアルより》

(9)虫さされ

a. ハチ

- ① 刺されたら、針を見つけ、なるべく早くトゲ抜きなどで、できるだけ皮膚に近い位置を挟み、注意深く抜く。(針の中に残っている毒をさらに押し込んでしまうのを防ぐため)
- ② 刺された部位をつまみ、毒を絞り出すように流水でよく洗い流す
- ③ 濡れたタオルなどで冷やす
- ④ 抗ヒスタミン剤を塗る
- ⑤ 静かに過ごすように配慮し、患部及び全身の状態をよく観察する
- ⑥ 病院を受診する

◎症状が軽い場合でも皮膚科を受診しておく心安心

◎ハチアレルギー(★)の症状が現れた場合は急いで受診する(必要時救急車要請)◎数ヶ所以上 刺された時、アレルギー体質、その他特異体質がある場合もすぐに受診する

※スズメバチに刺された場合は針がないこと、すぐにアレルギー症状が出ることが多いので注意する

*コラム*****

今回は、ハチ刺されの事例をあげました。保育園の活動の中では、蚊による皮膚炎などの対策が必要です。ここで蚊の対策についても共有します。

蚊は、体温や呼吸(呼気の二酸化炭素)汗などに反応し、刺されやすい人とそうでない人がいます。蚊に刺された時に出る反応は2つあり、刺された直後から数時間でかゆみが出る反応と翌日から数日後にでる反応があります。子どもはそのどちらの反応もでます。また、乳幼児期は蚊に刺された後の、アレルギー反応が最も強くでやすい時期です。そのため、園での虫よけ対策と蚊に刺されたときの対応が大切になります。

虫よけ対策: 刺されやすい児は、薄手の長袖長ズボンの着用を勧める。虫よけ剤を使用する場合、イカリジン配合の虫よけは、衣類にも使用できるため、あらかじめ帽子や靴に付けておくことも可能です。

刺された後の対策: 《世田谷区立保育園保健マニュアルより》

c. 蚊

① 水でよく洗い流す ② 抗ヒスタミン剤を塗る ③ 刺された部分を掻かないようにする。
冷やすとかゆみが楽になる

掻き壊し防ぐことも大切です。こどもは皮膚が薄くてやわらかいため、腫れが目立ちやすく炎症が広がりやすいです。掻くことで皮膚が傷つきとびひなどを起こす可能性もあります。爪を短くしていただくことも大切です。

(★)ハチアレルギーの症状： 顔色不良、じん麻疹、吐き気、嘔吐、腹痛、寒気、息苦しさ、むくみ、意識レベルの低下など（ハチアレルギーの症状がみられる場合は、ひどければひどいほど、反応が生じるまでの時間が 短く、15 分以内に起こっている

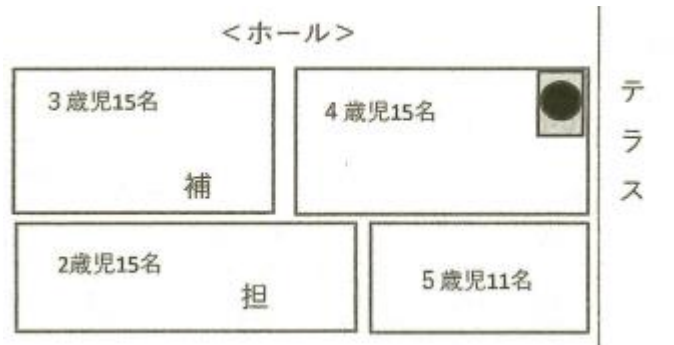
【肘内障の応急処置事例】

[診 断 名] 肘内障

[発 生 日 時] 10月 午後

[発生クラス] 4歳児クラス

[現 場 図]



[事故発生状況]

午睡時間帯に発生した。該当園児はトイレ後に布団の上で寝転んでいた。布団の上では仰向けになったりうつ伏せになったりと身体を動かしていた。その際「先生、腕がいたい」と涙声で言いながら、左手で右腕を押さえて起き上がった。

[応急救護処置の内容]

腕を動かさない姿や既往歴から肘内障の疑いが考えられた。事務所に移動して安静を保った。

[事故原因・問題点]

該当園児は普段、午睡時にトイレへ行き再眠するリズムで過ごしている。布団でゴロゴロ横たわっている中で右腕に負荷がかかったのではないかと考える。事故当日はいつもと同じ行動だったため、間もなく再眠すると保育士は想定し、午睡の見守りを継続していた。肘内障発生リスクの予測が不足していた。該当園児は、2年前にも肘内障を起こしていた。

～コメント～

午睡中に布団で寝転んでいた時に起きた肘内障の事例です。子どもの訴えをよく聞き、職員が既往歴を把握していたため、適切に対応できたケースです。

肘内障を引き起こす原因として多いのは「腕を引っ張られる」ことですが、寝返りをするとき肘を伸ばしたまま腕が体の下に入り込んでしまうことがあり、これが腕を引っ張るのと同じ状況を引き起こすため、午睡中も注意が必要です。

[症状]

肘や手首を痛がり、腕をだらりと下げ、自ら動かさない

[発生時の対応]

- ① 腕をぶらぶらさせないように、痛くないように、三角巾などで固定する
- ② 整形外科を受診する